

令和6年度 第2回 入船小学校地域連携運営協議会 会議録

日時：令和6年9月4日（水）午後2時00分～3時00分

会場：入船小学校 会議室

傍聴：1名

※ 第1回に選出しなかった副会長については、改めて互選を行い、熊谷多衣子委員が選出された。

1 校長あいさつ

- ・校長より、2学期はじめの学校の様子を伝えるとともに、あいさつを行った。

2 議題

(1) 令和6年度第1回学校評価の結果について

- ・教頭より説明を行った。
- ・協議

委員：相談も、発表もなかなか改善は難しい。片付けやタブレット活用も大人であっても難しい。あいさつも含め、大人がやらないと子どももやらない。押し付けるのではなく、大人が示すことが大切である。

委員：「先生に相談できますか」について、相談して解決したのか。解決の実感が持てれば割合は上がるが、諦めてしまっている部分もあるのではないかと。相談した後はどう感じたのかを聞いてみたい。

委員：学校としては、2学期以降相談した結果どうなったかについて、次回の生活アンケート等で確認できるようなら、項目に入れたり、見通しをもたせる手立てを行ったりしていきたい。

委員：肯定的な聞き方が多いが、否定的な見方の聞き方をした方が、本当の思いがでることもある。

委員：「なかよく」の項目で子どもと大人の認識の開きが気になる。

委員：子どもと大人で認識のずれがある部分に関しては、検討していく必要がある。松戸南高校では、担任以外にも「パーソナルチューター制度」として、相談したい相手を選べる制度がある。小学校では難しいかもしれないが、考えていく意味はあると思う。

委員：くじけたときにどうするかが大切だと思う。その点、「失敗してもあきらめず頑張れますか」の項目が向上しているのは嬉しい。何か良い手立てがあったのか。

委員：学校としては、教職員の働きかけが浸透してきたのではないかと。大人が言ったり、やったりしていることが伝わってきているのではないかと考えている。

(2) いじめ防止の取組について

- ・教頭より説明を行った。
- ・協議

委員：例えば、悪口を言ったことがあるか、など、よくない行動の経験を聞くことも必要では。

委員：学校としては、「自分が～したことはあるか」という視点の聞き方は行っていないので、いじめアンケートの項目を検討していきたい。

委員：いじめはなくなる。いじめは楽しいからである。解消するには刑罰が必要。いじめは集団でやっている、賢い子はいじめる側へ回っていく。

委員：幼児教育の観点から考えると、小さいうちから色々な子と関わって多様性、自他の良さを認識していけるようにしていく必要がある。1年生の認知件数が多いのは素直さの表れであると思う。この1年生の子たちに対して、どうアプローチをしていくのかが楽しみである。

委員：「やられた側」のフォローが手厚く、「やった側」を放置しているように感じることもある。「わざとじゃない」という相手に「わざとじゃないけど、嫌な思いしているから謝ろう」で片づけてしまっていないか。加害者に対しての指導は十分だろうか。(指導していたとしても伝わってこない)

委員：「豊かな人間関係づくり実践プログラム」(ピアサポート)というものもある。保護者にも協力してもらって実施していくこともできる。

委員：5年生から認知件数が減っている。「10歳の壁」という言葉もあるが、9歳(3・4年生)の子たちにどうアプローチしていくかが大切だと思う。

(3) 2学期以降の取組について(報告)

- ・教頭より地域文化祭について、現在の状況を報告した。

→継続協議

3 委員会活動の様子を参観

4 次回について

委員：次回は、健やかな体づくりについて協議するとよいのではないかと。

→各委員、了承。

教頭より、今後の予定について連絡して終了。